

留学先大学： グラーツ大学 カール・フランツェン  
 留学先での所属学部・研究科： 神学部哲学科  
 留学先での在籍身分： joint-study  
 留学期間： 2011 年 9 月～ 2012 年 7 月  
 神戸大学での所属学部・研究科： 国際文化学部 現代文化論コース  
 学年（出発時）： 3 回生  
 本報告書記入日： 2012 年 8 月 7 日

**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

| No. | コース名  | 教授名   | 時間数<br>/週 | 留学先<br>での単<br>位数 | 履修し<br>ている<br>学生数 | 予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。  |
|-----|---|---|-----------|------------------|-------------------|--|
| 1   | Einführung in die Geschichte der Philosophie (哲学史入門)  | Udo Thiel                                   | 1.5       | 3                | 70                | ドイツ語の哲学史の授業です。ソクラテス以前からフランクフルト学派や構造主義あたりまでの概観を行っています。ひたすらレジュメを読み、参考文献や教科書を読みます。またチュートリウムがあるのですがその場で質問をしたり、講義の内容の概説が聞いたりすることができます。先生の話し方が独特で演劇でも見られるかのような迫りがあります。けっこう人気の授業のようで座れない人は床に座っています。 |
| 2   | Der ethnographische Blick (Kulturtheorien des 20. Jahrhunderts) (民族誌的視座—20世紀の文化理論)                            | Elisabeth Katschnig-Fasch                   | 1.5       | 3                | 20                | ドイツ語の文化人類学やカルチュラル・スタディーズの講義です。最初はヘーゲルの弁証法やマルクスの下部構造論から始まるのでけっこう難しいです。パワーポイントなのでノートは取れます。   |
| 3   | Einführung in die Technikphilosophie: von Martin Heidegger bis Bruno Latour (技術哲学入門)                          | Guenter Getzinger                           | 2         | 4                | 10                | 講義という名のほとんどゼミの形式のドイツ語の授業です。技術と哲学、とりわけ存在論を中心にしています。先生がメールで参考文献を送ってくれるのでそれをひたすら読んで、講義に参加し、質問や議論をします。レジュメは作らないし、先生も配りません。討論や質疑応答が中心の授業なので、まだまだ厳しいです。  |
| 4   | Deutsch Grundstufe Niveau A2 2 (ドイツ語基礎)   | Birgit Simschitz                            | 1.5       | 3                | 15                | 留学生向けのドイツ語の授業で、予習の量もテストも大したことないです。ただ日本人は文法ができて、聞き取りでヨーロッパからの留学生に勝てない部分があるので、日本でリスニングの練習をすべきだと思います。   |
| 5   | Deutsch Mittelstufe 1, Niveau B1/1.Phase, Intensivkurs 長期休暇中の語学コース  | Eibel Albert                                |           | 6                | 20                | ドイツ語検定など取っていれば、文法などの筆記テストは軽くパスできますが、日本人は総じて聞き取りや発音が苦手です。しっかり聞き取るためにはできることと言えば、単語をひたすら覚えることと十分な睡眠を確保することだけです。   |
| 6   | Einführung in die Philosophie und in philosophische Grundfragen wissenschaftlichen Denkens 哲学及び科学的思考の根本問題への入門 | Salamun Kurt                                | 3         | 3                | 90                | 実存主義やマルクス主義など20世紀の哲学の各流派を概観するものでした。僕は全く知らないことを聴くだけで吸収は不可能だと思ったので、日本から持ってきた日本語の本やインターネットなどで調べたことをノートにまとめ、大筋を掴んだ上で、授業ではドイツ語で聞き直す、というようにしていました。テスト勉強は教科書をひたすら読み、その内容を自分の言葉方や文法力で説明できるようにしていました。 |
| 7   | Politische Philosophie 政治哲学   | Meyer Lukas                                 | 3         | 4                | 40                | 政治思想史や正義論などです。これも勉強の仕方は基本的に上と同じで、テスト前にチュートリウムで模範解答というか、おさえるべきポイントを明らかにしてくれたので、それに沿って予想しうる解答を作成し、本番にそれを記述できるようにしていました。  |
| 8   | Pastoraltheologisches Seminar (Orientierungen - von den Klassikern lernen: Friedrich Nietzsche) 神学のゼミ：ニーチェ    | Rainer-Maria Bucher, Hans-Walter Ruckebauer | 1.5       | 6                | 30                | 夏学期はほとんどこれに費やしました。毎週ニーチェの著作の抜粋を読まされます。15回ある授業のうち、5回ショートペーパーを提出するのですが、読むことだけでほとんど一週間が潰れ、読み切れないことも多々ありました。ペーパーを書くときはほぼ徹夜です。対策としては、日本語訳を持参していたので、原文と突き合わせて、地道に読まじかったです。                         |
| 9   |   |   |           |                  |                   |  |
| 10  |   |   |           |                  |                   |  |

**授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等**

授業に関してですが、ひとクラスの規模は当然ながら授業によってまちまちで、大講義室でも座れなくて床に腰をおろして講義を受けたこともあります。逆に10人を切るような少人数の講義を受けたこともあります。さらに日本では「ゼミ」として考えられているような、論文の精読とディスカッションを少人数で行うスタイルの講義もありました。また、チュートリウムがあるもの／ないものがあります。チュートリウムは本来の授業に加えて、授業の解説や復習・予習、テスト対策を学生が中心になって行うものです。チュートリウムの時間帯は、授業とは異なる曜日に開講されたり、その講義のテスト前の数回分の授業をチュートリウムにあてられたり、あるいはチューターに直接交渉してプライベートで会ったり、と色んなパターンがあるようです。たまたま自分が受講した講義は、ゼミを除いて、全て筆記試験でしたが、口頭試験やプレゼン、ショートペーパーなどによる授業内評価も講義によってはあるそうです。現地学生に関しては、授業中に頻りに発言して、発言者は自分の納得がいくまで先生を質問攻めにしていく場面が印象的でした。年齢層もバラバラで、おじいさんのような人が熱心にノートを取って聞いていた姿をよく見えています。一方、授業の内容に興味がないとか、眠くなってしまったとかいう学生はかなりの自由で退席してしまいました。途中退席に関しては、先生も学生も互いに特に気を使っている様子は感じられなかったです。それ以外には、携帯やパソコンでFacebookをしばしば覗いている学生や、ひどいときには授業中に寝ている学生もたまに見かけました。どこの学生も変わらないものだと思います。真面目な学生が多いですが、全員が全員そうである、というのはまた違うかもしれません。

**費用について**

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃： 往復24万円程度
  - ・住居費： (月額) 13,000円 × (留学期間) 10 ヶ月 = 130,000円
  - ・食費： (月額) 50,000円 × (留学期間) 10 ヶ月 = 500,000円
  - ・保険料： 月5000円程度
  - ・その他： 書籍、CD、コンサートのチケットなど
- 合計： 120万円 (留学期間全体の費用)

## その他 自由に記入してください。(800字～)

学部柄か、どこかヨーロッパに憧れる一方で、日本を含めたアジアを軽視していたようなところが自分の中には確かにありました（幼いころ、まだそれほど発展していない中国に住んでいたことも恐らく関係しています）。旅行を重ね、実際にそこに生きている人間や、その社会の問題などに触れて行くうちに、そうした偏見も改まったようにも思いますし、自分が今住んでいる日本を見直すことも多くありました。特にルーマニアに旅行したとき、現地の友人に「歴史と文学が分かれば、その民族のことはかなり理解できる」と言われたことは特によく覚えています。僕自身、日本の歴史や文学についてどれほど理解してきただろうか、自分が日本人とはいかなる民族か説明できるだろうか、と深く反省させられました。

慌ただしく、部活やアルバイトをしていくうちに1日が終わって行くような日本での生活と打って変わって、毎日ひたすら授業の予習を図書館でしたり、公園でじっくり本を読んだりすることのできた留学中の生活が今となっては懐かしいです。留学中を思い出せば、苦しいことの方が多かったように思いますが、その分得られたものは大きかったように思います。単に勉強のことだけではなく、精神的にも鍛えられたと思います。自信を失ったときにはずっと日本でやってきた空手が支えになりました。現地の大会で優勝したり、空手でできた友人と泊りで遊んだりすることもできていい思い出もできました。良い留学生活でした。